

市民活動センターだより

11 月

令和元年
vol.43

問合せ

〇ながはま市民活動センター
長浜市役所〈本庁舎3階〉
平日 8時30分～17時15分
〒526-8501 八幡東町632

〇北部サテライトセンター
きのもと交遊館
水・日曜日 9時～21時
〒526-0425 木之本町木之本1118

☎ 65-6525

✉ katsudou@city.nagahama.lg.jp

市民活動に関する事務作業や打ち合わせなどにご利用ください!

TOPIC | 今月の情報コーナー

紅葉を楽しんで!
30年間続く保全活動

紅葉の名所として注目され、昨年は約10万人もの観光客が訪れたという木之本町古橋の鶏足寺。参道が落葉したモミジで敷き詰められ、真っ赤なじゅうたんにも見える様子は壮観です。

境内の除草や遊歩道の整備などを通じて、この美しい景観づくりに努めているのが、「古橋史跡文化保存会」です。平成元年の発足から30年間月に1度、男女約20人のメンバーが保全作業にいらしています。

古橋には、山岳仏教の修験の場となった己高山や数多くの観音像、石田三成にまつわる伝説など、歴史文化遺産が密集しています。石田三成がかくまわれたという「オトチの岩窟」への山道整備を行うなど、集落の財産となる史跡を守り、訪れる人をもてなそうとの思いを込めています。

毎回、活動を終えると参加者で休憩タイム。笑いの絶えないにぎやかなひ

とときで、お互いの労をねぎらいつつ、集落の先輩から昔話や言い伝えに耳を傾けることも。地域のことを後世へ受け継ぐ場にもなっているのです。

いよいよ紅葉シーズン。多くの人に喜んでほしいと、活動にも熱が入ります。



▲汗を流しつつ、常に笑顔の絶えないメンバー

北郷里地域のシンボル
再活性をめざして

北郷里地区の東、米原市との境に、南北に横山と呼ばれる丘陵があります。ここには茶臼山古墳に始まる古墳群や、姉川の合戦の舞台となった龍ヶ鼻砦や横山城跡などの史跡が点在。暮らしのなかで子どもの遊び場となるなど、地域住民にとって身近な存在でした。しかし、時代の移り変わりや獣害の危険性から足が遠のき、一部は荒れ

た状態になってしまっています。

そんな横山を地域の資産として活性化させようと、9月に北郷里地域づくり協議会内に「横山再生委員会」を発足。保全活動や植樹、案内看板の設置、案内パンフレットの作成などを通じて、歴史愛好家などにも向けた取り組みを進めつつ、子どもたちの郷土学習にも積極的に関わって支援していく予定です。

横山付近には、石田三成にまつわる史跡や近隣地域の農業用水の源となる水利なども。300mにも及ぶ山並みの整備は長期的な活動になりますが、関連団体や自治会と連携し、地域の魅力発信に励みます。



▲地元自治会などとともに進めている茶臼山古墳一帯の整備

こんな活動してます!

平成元年の創刊以来「知ってるつもりの再発見」を合言葉に、湖北地域の歴史、文化、暮らしを深掘りしている冊子「み～な びわ湖から」。B5版72ページで年3～4回発行。毎号50ページほどをさいて特集を組み、戦国武将、観音さま、祭礼、近代化遺産、街道などをテーマに、これまでに138号を発行してきました。「湖北のことを知るならまずみ～なを読んでみて」とも言われるほどに地域を代表するタウン誌です。

執筆メンバーは20～70代の男女約10人。編集長の小西光代さんの指揮のもと、編集会議を経て担当した取材や撮影を担います。メンバーの多くは仕事や家事の傍らの活動ながら、綿密な取材や調査を欠かさず、読み応えのある記事に仕上げます。編集室の母体として長浜み～な協会があり、発行に共感する市内外の企業などが会員として協賛しています。

年内に発行予定の139号の特集テーマは国友町の鉄砲鍛冶。来年の大河ドラマにも関わりのある内容となりそうです。

長浜み～な編集室



12月1日(日)から長浜図書館で、これまでの発行の軌跡を追う展示を開催。約半年間、内容を随時入れ替えながら紹介する予定です。

問 長浜み～な編集室 (☎63-0317)